

事業コード	H25-建-継-20		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	二級河川 三種川		担当課長名	河川砂防課長 齋藤 春美
箇所名	三種町森岳		担当者名	副主幹(兼)班長 川村 潤
総合計画との関連	政策コード	11	政策名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

1. 事業の概要

事業期間	S57 ~ H46 (54年)		総事業費	160.8億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長L=14,100m 計画高水流量Q=330m ³ /s (1/10)					
事業の立案に至る背景	三種川は、河幅が狭小で蛇行していることから、毎年のように耕地や宅地が広範囲にわたって浸水し、地域住民に多大な影響を及ぼしてきた。特に、対象区間は住宅が密集しており、周辺には山本中学校、森岳駅等の重要な施設が位置し、それらを結ぶ県道、町道、JR等の交通幹線が洪水時に寸断される恐れがあり、地域住民の生活を脅かしている。このため、河道拡幅や橋梁の架け替え等を実施し、洪水被害を解消させ、地域住民が安全で安心できる地域づくりを行うものである。					
事業目的	地域住民の生命と財産を守るため、河積確保や湾曲河道是正等の河川改修を実施して浸水被害の解消を図り、安全で安心できる地域づくりを推進する。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		8,714,000	16,071,000	7,357,000	
	経費 内訳	工事費	4,745,000	9,469,400	4,724,400	
		用補費	2,784,000	3,445,000	661,000	
		その他	1,185,000	3,156,600	1,971,600	
	財源 内訳	国庫補助	4,357,000	8,035,500	3,678,500	
		県債	3,921,000	7,231,900	3,310,900	
その他		0	0	0		
一般財源		436,000	803,600	367,600		
事業内容		築堤工 護岸工 道路橋 JR橋	築堤工 護岸工 道路橋 JR橋		近年の豪雨により、当初計画区間より上流側で浸水被害が頻発していることから、改修計画を延伸して増工する。	
事業の進捗状況	全体計画 160.7億円 平成24年度末時点投資額 83.0億円 進捗率 51.6%					
事業推進上の課題	事業の延伸にあたっては、浸水被害を受けている地区を優先して整備する方針としているが、それらが上流部に集中しているため、下流部への影響を丁寧に説明しながら事業を進める必要がある。					
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」において、5つの戦略を支える横断的取り組み(4)社会資本整備の推進の中で、「水害・土砂災害への対応力強化」が位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	これまでの改修区間については洪水被害が解消されてきているが、近年では当初計画区間外としていた上流部で浸水被害が多発しており、事業延伸と早期完成について地域住民から強く望まれている。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率=改修延長/要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目標値 a	45.2 %	データ等の出典		県 河川砂防課調べ	
	実績値 b	45.5 %				
達成率 b/a	100.7 %	把握の時期	平成25年3月			

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止	
	①指摘事項	
	特になし	
	②指摘事項への対応	
特になし		

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	治水上の最重要区間である市街地区間は改修済みであり、改修効果は上がっているが、上流部の長面橋までの区間については未整備であり、豪雨の度に浸水被害が発生している。浸水想定人家戸数が156戸と多く、山本中学校や森岳駅等の公共施設、県道やJRなどの交通網の浸水も想定されるため、事業実施の必要性は高い。	28点
緊 急 性	現況流下能力が著しく低く、氾濫した場合の市街地地区への被害は甚大である。また、当該区域は重要水防区域に位置付けられていることから、事業実施の緊急性は高い。	13点
有 効 性	河川断面の拡幅により、昭和54年洪水の洪水規模流量を安全に流下させることができるため、改修済み区間では治水効果が発現している。また、散策路や階段を設けることにより、水に親しみやすい川づくりに努めている。	12点
効 率 性	事業の費用対効果は1.08であり、効率性は確保されている。また、排水樋管及び橋梁の統廃合や、護岸工の実施範囲の絞り込みなどによってコスト削減を図り、事業の促進に努めている。	10点
熟 度	地元自治会より、河川改修事業に対して強い要望がある。また、工事影響範囲の小さな計画の採用や、環境保全項目の地元聴取、建設副産物の積極的な再利用などによって、河川環境に配慮しながら事業を推進している。	20点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) 地元からの要望が高く、「必要性」「緊急性」等から、本事業の評価は高い。	83点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業の継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト削減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H25-建-継-20)
箇所名 (三種町森岳)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49～10戸	7		
		10戸未満	3		
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59～10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	5	
		2～1施設	3		
		無し	0		
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み	5	3	
協議中であるが特段問題ない		3			
策定に着手していないが予定がある		1			
予定無し		0			
計		30	28		
緊急性	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	10	
		40～59%	7		
		60%以上	5		
	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	
		評定基準区分B	3		
計		15	13		
有効性	安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	0	
地域開発の計画がある		1			
計		0	0		
効率性	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	
		1.0未満	0		
	該当項目数	3項目以上	5	5	
		2項目	3		
		1項目	1		
無し		0			
当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	0		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計		15	10		
熟度	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある	5	5	
		参画している	3		
		参画していない	0		
	進捗率	計画より進捗している	10	5	
		概ね進捗 (90～100%未満)	5		
		計画より遅れている (90%未満)	3		
	環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	5	システム=秋田県公共事業環境配慮システム
システムでの環境配慮事項が1～2事項		3			
システムでの環境配慮事項がない		0			
計		25	20		
合計			100	83	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		